

同窓会報

第 8 号
 社団法人
 上田高等学校同窓会
 昭和49年 4月30日発行
 印刷所
 田辺印刷株式会社

運動場敷地の購入

長野県開発公社で

昭和四十八年三月十六日小山一平市長(第31期)、柳沢文秋上田高校同窓会長(第27期)、小林軍司上田高校PTA会長(第37期)、岩下美千穂上田高校長(第29期)が、母袋忠右衛門県会議員(第32期)の案内で県庁に出頭し、西沢県知事、小林総務部長、小松教育長、尾崎県会議長、地元選出の羽田、山岸、西川、中村の県会議員に対し、上田高校運動場購入の陳情を行なった。三月の長野県議会に於いて本件は継続審査となった。五月九日県高校教育課員来校し現地調査をす。定例会に於いて購入が採択され、七月十四日学校用地取得資料二十五部を作成し、県に提出。

七月二十四日県財政課、高校教育課員来校、校舎及第二グラウンド予定地調査。
 九月十四日県教育委員長より上田市長宛、学校用地取得につき正式文書依頼があった。
 十一月五日土地評価書類提出

昭和四十九年度総会

五月二十六日開催予定

昭和四十九年度総会は五月二十六日(日)同窓会館で行なはれ、昭和四十八年度事業報告と同決算報告の承認と四十九年度事業計画と予算案の議決が行なはれる。総会での四十八年度事業報告は次のようである。
 1、社団法人上田高等学校同窓会四十八年度通常総会を五月二十七日開催し、東京医科歯科大学教授柳沢文徳先生による「食品公害―何を食へたら良いか」の講演をされた。

なり敷地所有者の格別の好意を関係者一同が期待されている。
 グラウンド予定地

運動場予定地は上田市西方、常磐城二丁目(諏訪部区)にあり、信越線の南側、千曲川堤防との間の畑作地一帯、所有率は県有地(畜試桑畑三筆で29%、私有地36%筆で71%程)の約一四、〇〇〇㎡で環境が良く、この西、隣接に古舟県道が建設されつつある。グラウンドは県道の東側である。

校舎改築期成同盟会

近く改組、再出発

校舎改築期成同盟会は会長を市長に、副会長を同窓会長、PTA会長と決定し、組織していたが、小山一平市長は参議員選挙に出馬のため上田市長を昨年辞職され、上田市長は石井泉氏になり、本年四月にはPTA役員改選、五月同窓会役員改選があるので、この両者の改選後、石井市長を会長にする期成同盟会の改組が行なわれ、新しく校舎改築運動を展開することになる。

維持会員増強を願う

会館維持のため

同窓会昭和四十八年度の収入は二百六十六万九千九百円であり、支出は二百六十三万二千二百六十六円、差引繰越金四十五万七千六百七十四円であった。この収入の大部分を占めるのが、生徒入学時納入の会費六十一万三千五百円、会館使用者により会館維持負担金七十五万八千六百五十円と会員の善意による維持会員費五十八万一千五百円が主なものである。本年度は生徒一人入学時納入金一千五百円を値上げ、会館使用負担金の増額をしても、尚人件費、諸物価の高騰のため同窓会の運営、特に会館の維持は困難である。
 維持会員は故勝保稔先生の発案により同窓会一人年額五百円の会費負担をするのであるが、数年前より東洋信託銀行と契約し一〇一〇万円の投資信託を購入して戴くとその利子中より五百円を会費として当会へ送金され、五年後には元金と利子の残金が御手元へ届く契約をしている。直接維持会費を振替用紙で送金されても結構であるが、本年度からは二〇以上の御歳金をお願いしたい。

寿製薬株式会社

本社 長野県埴科郡坂城町上五明

TEL 02688 (2) 2 2 1 1

社長 富山 節
 専務取締役 富山 剛(54回)
 常務取締役 // 格(62回)
 (薬学博士)

安全とサービスを保って20年



営業品目 LPG・配管・器具・冷暖房工事・防災器具
長野プロパンガス株式会社

本社上田店 上田市大字国分542番地
 TEL (02682) ②5518代
 松本支店 松本市美須々7の1番地
 TEL (32) 4652代
 諏訪支店 諏訪市大字四賀757番地
 TEL (2) 4353
 広丘工場 塩尻市広丘野村
 TEL (2) 0672
 長野営業所 長野市中越
 TEL (43) 5307

明年は五十周年

同窓会理事長 柳 沢 文 秋

上田高等学校同窓会は大正十五年創立であるから、明年は五十周年を迎えることになる。この記念すべき年を迎えるためには、本年中に第一グラント購入を終了し、使用出来るようにして、現在のグラントに仮校舎を建築し、校舎の全面的改築に入る出発の年とした。上田高校の校舎は老朽化したと雖も県はそれを中々認めないが、現実に講堂の天井は抜け、各所に破損は目立っているため、全會員

東北大の会合

十五年前から毎年されることな、く大学医学部の各学年に上田出身者がいたことから、昭和三十七年東北大学医学部学生寮「昭和舎」で生ぶ声をあげました。

以来追出ししコンパと敬遠コンパという事で毎年二回会合を持つようになった。発足当時は社会人皆瀬明光先輩(第40回)だけでしたが、今では社会人が多数を占めている。

話題は、医療、医学教育などが中心となりますが、最後はいつも恩師の話になり、二次会へととなります(河原田(旧姓佐藤)和夫第55回)

三八懐想

の総力を結集して、県教育委員会に現状を強く訴えて行きたい。本年度の上田高校入学式に当って全国の高等学校同窓会の中で、文部大臣認可の社団法人組織の同窓会は上田高等学校同窓会が唯一であることを説き、良き先輩に続き毎日帰宅後少なくとも五時間は勉強するように激励した。

卒業の仲間である。細みあげ靴が五円学生服が五円授業料が四円校友会費が一円という時代で、日本の軍国調が盛んになりつつある時であった。卒業一八四八人中戦死が三三八名にのぼっている。当時三式歩兵銃で、また毎年八月一日五日を三八会の定例日と定めていたが、この日は日本の敗戦の日であり、一億総懺悔の日でもあった三八会の名といふその定例会日といふこの時代に生きた者としてはさまざま意味を含んでいる。また軍事教練といつて軍直属の将校がおり正課となっていた。そ

今年も前進発展の年に

学校長 柳 沢 恒 夫

校地内の桜の芽もふくらみはじめる四月となりました。同窓会員の皆様には、それぞれで健勝にご活躍のことと存じます。會員の皆様からは、日頃母校に対し暖かいご配慮やご援助をいただいております。感謝申し上げます。

学校も、全日定時合せて四〇〇八名の新生を迎え、入学式始業式等も済んで、いよいよ新学期がスタートいたしました。これから今年も多彩な活動が始まる訳ですが今年も昨年以上に、学校として前

進発展の年にしたいと念じております。昨年度の学校活動も前年度に較べて劣ることはなかったと思えます。学習の面、対外活動の面などいづれも順調であったといえます。進学の成績も未だ細かい集計はできていませんが、この三月の卒業生で、国公立二期校約一三〇名ほど合格して、前年を上回っています。クラブの対外成績も高校総体や団体出場はもとより各種大会で常に上位に進出して

の二環として一泊二日にわたり野外教練が上州鹿沢高原で行なはれた。銃をかつき背囊を負い靴音も高く校門を出て徒歩で鳥居峠を越えていった。いかめしい配属将校進藤大佐の指揮のもとであった。その時のハブニングで水筒に水の代りに酒を入れていった者がありそれを数人で飲み高原の夜の宿にきやかした。このことが帰校後わかり、教練に酒を持っていき騒ぐとは何事かと、学校をあげての問題となった。そのクラス担任の柳沢延房先生(現長野県立短大長)や学年主任の高野豊文先生(現本州大講師)は学校と生徒の間にはいり血のにじむような苦勞をされた。このことは毎年三八会で酔いがまわる程に両先生は眼を

細め「君らには本当に苦勞したよ」と三五年前のこと昨日のこのように語られることもなつかしい。また田中真学という豪者がいて、全校弁論大会で学校当局を批判、時の松岡教頭から弁論の中止を命ぜられ壇上からおろす、おりにで末壇をおりたがこの君も一高東大と秀才コースをすすみ不幸東大在学中に病死したことは惜しまれてならない。

大きな夢を抱き空しく戦野に散った友と共に物故者はあわせて五〇余名に達した。戦後慰霊法要を行なうこと三回友を偲び遺族をお慰めするよすがとしているが、思えばなつかしい友、友、友であり受難日本の縮図のような三八回生である。(宮崎盛登記)

四十七期は八宝閣で

「秋玲瓏の空衝きて……」と、東京の初夏の夜空にひときは高く校歌の大合唱を響かせ、二十数年ぶりの旧交を温めながら、四十七期の集いが開かれました。

これは、在京の沢木敬郎(立教大学)石川重成(花月)上原草(グイヤ商会)の三君が幹事となり五月二十五日、東京池袋の八宝閣に同期生三十有余名が集まり、中華料理に舌つみを打ちながら開かれたもので、今回とくに母校近在の者にも呼びかけ上田市などから六名はせまじ、卒業以来の再開のためか、悪童時代の面影に戸惑いながらも、飲むほどに酔うほどに幼きころの地金を露呈させるシーンもしばしば見ました。

こころのふるさと 上田市別所温泉へどうぞ

や 松 屋
まつ 上
う え
員 呂 風 呂
連 望 展
日 観 展

自己紹介を兼ねた、身辺の紹介には、卒業後の一四半紀という歳月を感じさせることひとしおで、それぞれ関係各界で活躍している一面にもじみ出ておりました。

四十路を越えるころになると物語者も出てきて、昨年、他界した内田信志君について、地元事務局担当横山二男(筆者)から事情を報告、冥福を祈って黙禱を捧げました。

あとは、それぞれの健康を祝し、発展を祈って飲み合い、歌い合い、来年度の幹事に西沢祥平(NHK)城下利雄(城下法律事務所)山崎繁広(自営)の三君を選び、来年度五月第四金曜日の再会を約し散会二次会へと歩を進びました。

旧交の初夏の夜風に魅せり (横山二男記)

高級天然宝飾品大卸

原嶋貴石株式会社

社長 原嶋 佐吉(第44回)

東京都新宿区四谷三栄町6(原嶋ビル内)
TEL 03-357-8661

電話上田(02682) 8-2300(代)

倉 沢 秀 一(第39回)

上田高校同窓会 「関東支部の現況」報告

上田高校の卒業生の中、関東地区に在住する同窓生をもって組織されているのが、我が関東支部である。

その創立第一回総会から本年六月二十九日(土)に開催も予定されている第十三回大会までの歴史の歩みを紹介したが、次の機会にゆずらせていただき、現在の関東支部の動向の一部について綴らせていただく。

*何れの学校においてもそうであるが、同期生の集いにおいてさえ関心もなく、ましてや全同窓生の会合、組織というものに全く無関心の同窓生が多かることは論をまたない。特に若い期に多い。

我が関東支部の場合、一昨、昭和四十七年に作成された同窓会本部の全同窓生名簿から、関東地区在住者をピックアップしてみると三千八百三十二名の会員数でありこの名簿が作成されなかった三年前の会員数は一千八百三十九名であり、丁度二千名の増加である。

この中どれだけの同窓生諸氏が関東支部の存在に関心をもたれているのか、その推測も困難である。しかし五年前から次秋の二回にわたる本会では会報「うへだ」を発行してきている、その年会費の納入者諸氏が、一応関東支部に関心をもっているものと解してよからうと思ふ。

年次によってまちまちであるが大体、千名前後の数が実情である。しかしだからといって、他の同窓生諸氏が全くの無関心かということではなく、事務局への問合せや、各卒業期毎の各幹事が、年会費納入を怠っている同期生にハッパをかけてくれると、忽ちにしてその期の関東支部会員の年会費が完納される。要するに各期を代表する各幹事の努力如何によって関東支部全体の団結が造成されてゆくと考えても過言ではない。

まさに関東支部の盛衰は、各期代表幹事の尽力の如何にあるというところである。

*本年の三月三十一日をもって現全幹事は過去三ヶ年間の任期が満了し、四月からは各期を代表する新たな幹事をもって幹事会が構成され、支部長以下役員幹事も全部改選される。

新鋭の気合がこめられて、我が関東支部も一段と発展してゆくことであろう。

附言するが、年とともにたしかに、関東支部は発展目ざましきものである。ただに全同窓生大会の発展のみでなく、例挙げれば、
(一) 各期毎の同期生会の会合が次第に誕生し、同期生の団結友情が盛んになってきたこと。
(二) 各運動部のO日会が誕生してこれまた特異な存在の同窓会なる

ものが結成されてきたこと。
(三) 更には出身地区別の郷土会なる会合などの誕生をみたこと等々である。

関東支部機関紙「うへだ」も発刊以来九五年、第十号を本年一月に発行した。この会報が会員の各位に愛されつつ成長し、意思疎通に如何ほど役立っているものであるのかも軽視するわけにはゆかない。

*同窓会とは何であるか、その本質論はさておき、同門に学んだという点のみで我々には初対面でも何かしら心なごみが覚えられ

る。同窓会本部の発展も折念しつ、簡略我が関東支部の現況の一部面について報告させていただいた次第である。(幹事長(羽島五郎))

第四十二期生は 社会の中堅

社会の中堅

歳月人を待たずの格言通り月日の経つのは早いもので、吾々四十二期生が「古城の門」を跡にして早、三十年の歳月が流れた。輪既に五十に垂んとする同期の桜は、いまや社会の中核的存在として業界に、官界に、教育界やそれぞの分野に確乎たる巨歩を印しつ、あることは誠に同慶に堪えないところである。

関東支部の活躍、長野市を中心とした学友の動向、そして上小の天地に活動する級友の姿を思うにつけ云い知れぬ感慨に涙ぶに涙ぶのも、われ一人ならざるはなしと思つている。

先般の上小・長野地区を含めての集りでは、恩師中村六男先生のご臨席も得て二十六名の顔が、一堂に会することができたが、その席上次の三項について意見が交換された承をいたしたので銘記したい。

北海道支部結成す

昭和四十八年五月十二日、上田高校同窓会北海道支部が結成されました。場所、札幌市内、きの居酒屋二合半、出席者二十名(うち学生二十四名)、支部長以下の役員は次の通りです。

支部長 宮坂幸男(三十二期)
幹事 小山昭一(五十一期)
佐藤勝博(六十九期)

札幌では従来から北大学生を中心とする上田高校の会があり、年二、三回の例会を続けて参りました。この会は、始めは学生だけの会でしたが、その後北大の内外を問わず、札幌在住の上田高校の先

一、母校に対する記念品の贈呈記念品の贈呈は、先輩各位が実施してきている。善行で、聞く処によると順番として四十二期が該当していると言ふ。近日中に準備委員会を構成して今秋までには実現したい意向で、事業推進を図ることになった。

二、全体の同期生会の開催これは第三項にも関連する事項でもあるが、永い間絶えていた会を開催し、これを定期的なものにしてゆきたい。

三、同期生の法要の実施創立七十周年記念事業(同窓会)として発刊された会員名簿を二見して愕然とすることは、三十年の歳月の中で、失った同期生は実に二十余名に達するという事実である。戦場の華として散つて逝つた友、悪性の病魔に克つことあたわず、あたら有学な前途を失つた友、これら学友の心情を思うにつけ感慨一入なるものがある。

幽明界を異にすると言ひども、これら学友の果し得なかつた悲願を継承するこそ同じ学舎に五年間、辛苦を共にした吾々の責務であることを自覚して、心暖る法要を行ひ、冥福を祈りたいと思ふ。

以上三項目を決定したが準備その他事業推進を考えると、これまた大変なこともある。学友諸兄のご協力、ご声援を心からお願ひしたいと念願している。

各方面の連絡者次の通り
関東支部 横山誠之助君
東京都国分寺市東元町 一〇三六一五

各種高級天然宝石製造卸

富士宝石株式会社

社長 宮後 圓 都(第44回)

東村山 津町 2-1184
TEL 0423 (01) 0581

長野市支部 島田陽太郎君

長野市栗田六〇一(県庁農政部勤務)

上田・小泉本部 保刈 定美君

上田市中央二丁目 三十一

倉沢 彦夫君

上田市大字築地(市役所 税務課)

荒木 伝久

小泉都真田町大字(上田商工会議所)

鹿務 謙

その他 沓掛信敏、水野泰

両君など中心になってお世話を

いたしていることを附記す

(四十二期生 幹事 荒木伝久)

第二十二回同級会

去る四月八日、別所温泉斎藤旅館において開く。集まるもの二十二名、札幌市からの内堀賢郎君が最遠地、五十年ぶりの参会者が、柴崎菊雄、小川誠之、宮沢勝次郎の三君だった。

まず、クラスメートの山下、守清野の三大和尚によって、三十八名の物故者の慰霊法要が執り行なわれ、参会者の一人一人が三十八の霊に香を捧げた。物故者の中には去る大東亞戦に将校として戦死した藤倉大順、三井彦太郎の両君満州開拓団の学校の先生として不帰の客となった山部聡男君が含まれている。

何といても半世紀ぶりの記念の会、一同卓を開いて先ず五十年の各自の歩みを語り且つ聞き合ったが、制限時間が惜しく、時余に亘る懐旧談を閉じて宴会に移つても、また入浴しても、寝床に入つてもなかなか話は尽きようとしなかった。

また、法要の前約二時間、有志が参加して遠藤の案内で北岡観音安楽寺、常楽寺の文化財の見学を行なつたが、案外好評であった。われわれの上中在学時代は、いわゆる大正モクラシーの激動期であった。しかもわれわれは五年にわたる第一次世界大戦の最後の年に入學し、関東大震災の年に卒

四年生の時には、原敬首相の東京駅頭における暗殺事件、ワシントンにおける軍縮会議、わが国最初の航空母艦の進水、五年生の時には、軍縮条約の調印、金国水平社創立、日本共産党結成(非法合法)平和博覧会の開催、兎に角目まぐるしく変動した五年間であった。そして関東大震災の大混乱が来たのであった。

そして今、あれから半世紀、現在の變遷のテンポのはげしさを思いつつ、われらの半世紀の人生、そして日本を思い合つたのであった世界の三等國から一等國への飛躍を半世紀でなしとげた國が他のどこにあったであろうか。齢古稀に

達しようとして生存者六十名、うちこの会に出席できたもの二十二名、互に今日の命を祝福し合い、また会う日を誓つた次第である。

(出席者) 五十首順
内堀賢郎 遠藤憲三 小野寅次郎
大井昇 神林慎寿 清野良田
小山礼吉 小林誠之 柴崎菊雄
滝沢信男 滝沢実 林長治
平林英一 平尾義雄 宮沢勝次郎
宮城博 守深宏 山下雄雄
柳沢正春 横田栄一郎 横山正三郎
横島将利
(写真参加者)
柴宏人 本間茂

二八会慰霊法要

◎二八会物故者の慰霊法要を前山寺で行なう。

二八会は卒業以来四十余年を経過した。昨年八月定例会を上山田温泉で開いた際、来年は物故者の法要を兼ねて会を開いてはどうかという話が持ち上り、以来地元幹事はこの件について遺族の調査から法要の時期、場所等着々準備を進めて来た。四十八年五月十二日西塩田の前山寺で開催することに決定、同期生に案内状を発送すると同時に遺族各位に招待状を出した。

いよいよ五月十二日の当日になった。上田駅前集合で、貸切バスを任立て前山寺に向つた。前山寺は「独鈷山前山寺」という名の通

今の四十は昔のハタチ

恩師諸先生に煽られた
第五十期東京新年会

「招待状に四十づらを見に来てくれとあったが、今どきの四十は昔のハタチだよ。遠路上田よりわざわざおいで下さった清水次郎先生に開会初頭よりハツバをかけられて、第五十期の東京では初の新年会が一月十九日土曜の夜、レストランチサン日本橋店にて開かれた。

関継夫(川口市で内科医院開業の首頭に呼応した同期生五十四名

人政子さんの謝辞があり、同期生の皆様からこのようなたたかい催しをしていただき、亡き主人はどんなにか喜ぶことでありましょう。今日帰ったら早速夫の霊前に今日の催しをつぶさに報告しますと、涙にむせび乍らの挨拶に列席した遺族をはじめ一同胸にジーンと来るものあり、思わず目頭が熱くなりました。遺族を囲みこの席ならではの味わい得ない山菜料理の珍味に舌づつみをうち乍ら、思い思いに生前の追憶話に花を咲かせるとのたつのも忘れ一同感慨深き一日を過ごして散会した。

二八会物故者慰霊法要
委員長 新保富治
委員 中山健三、小笠原聡三、坂田武雄、掛川重平
(昭和四八年五月二日掛川記)

(その一) 自己紹介を卒業時の組別に行い、これが一組で若下先生に卒業させていたいた面々です。これが三組で斎藤先生に……次が八組で荒木先生に……各先生、ニコニコされながら昔の顔を思い出されながら御満足されたかどうかは……先生であつたか……先生……と今ごろ感じは遅いのか……(その二) 清水先生がお話中にあちこちの懐旧談が少々ガヤガヤしたのに対し「おい、少し静かにしなさいや」。昔教室でもよくそう云われたっけ、と学生時代の教室に戻らせていた、ききました。生徒っていつまでたつても、しょうがないもんですね

(その三) 余興の口火は俺が切ると思つて出たが清水先生、ドイツ語の歌からはじまり、アンコールに添えてと云われて次から次々、季香蘭の唄まで出て生徒の方は全く顔色なし、数曲唄われて、「次は若下唄え」となって、余興は全て先生方の舞台で遂に生徒側は一人も出ずじまい。開会から閉会まで三時間有余、今回は全く先生方に煽られ通して恐れりました。

その四、その五と書いて行けば限りなく楽しい懐い会でしたがこれも偏に先生方のおいでで賜物と深く感謝御礼申し上げる次第です。今回は先生方に負けぬ底力を昭和一斤のおとなしい第五十期生が発揮するさまを楽しんでいた、けると信じて本日深く兜を脱ぎました。